

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

## 地産アサリ稚貝を用いた被覆網設置による母貝場造成手法の検討

県北広域本部水産課・永田 大生

### 【背景・目的】

管内のアサリ資源は、低位水準で推移し危機的な状況下にある。アサリ資源を回復させるためには、産卵母貝を漁場に残し、浮遊幼生の数を増やしながらか資源量の底上げを図ることが重要になる。そのため、アサリ稚貝を網袋に入れて保護・育成する広島県大野地区「大野方式網袋採苗」の実証試験を松尾地区で行った後、継続して被覆網試験を行い、当地区での被覆網の設置条件を検討することを目標とした。

### 【普及の内容・特徴】

月日：令和2年(2020年)10月14日、10月29日、11月14日、12月14日、令和3年(2021年)1月15日、2月12日、3月16日 計7回

場所：熊本市西区松尾地先(令和元年(2019年)施工の県営覆砂漁場)

方法：①覆砂漁場内で自然発生した地産アサリ稚貝を「大野方式網袋採苗」に従い、約4ヶ月間保護・育成した平均殻長17.5~21.3mmのアサリを用いた。

②被覆網(目合6mmのナイロン製メッシュネット)で2m×2m覆った被覆網区を2区、覆っていない対照区を2区設け、①のアサリをほぼ同量移植した。なお、被覆網区は、波浪の影響を軽減させるため、四隅を杭で固定し、周辺に深さ約10cm、幅20cmの溝を掘り、溝内に被覆網の縁辺部を入れ込むとともに漁場の砂で埋設した。

③移植したアサリの残留率を把握するため、被覆網区及び対照区の4~16ヶ所を10cm×10cm(0.01m<sup>2</sup>)方形枠によりサンプル採取後、7mm角目のステンレスふるいで砂を落とし、残ったアサリを計数した。

結果：令和3年(2021年)3月の調査時の被覆網下の残留率は56.7%であった。一方、対照区の残留率は0%であり、放流したすべてのアサリ稚貝が消失した。また、被覆網下のアサリの平均殻長は28.3mmであり、放流時と比較して1.3倍と殻長の成長も認められた。なお、被覆網区の2区のうち1区は、令和3年(2021年)1月の調査時に被覆網の大規模な損壊を確認したため、被覆網の設置場所には不向きと判断し試験を中止した。

### 【成果・活用】

実証試験により、アサリに対する被覆網の高い保護効果を確認した。一方、波浪による影響で被覆網の破損が見られることがあるため、被覆網の設置場所の事前検討が必要と考えられた。次年度、地元アサリ採貝漁業者へ結果報告し、本取組みを進めていく。

### 【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが取組に改善を要する等の課題も見られた(51%~75%)

